

東京2020大会競技会場における 多言語放送システムの整備について



多言語対応協議会事務局

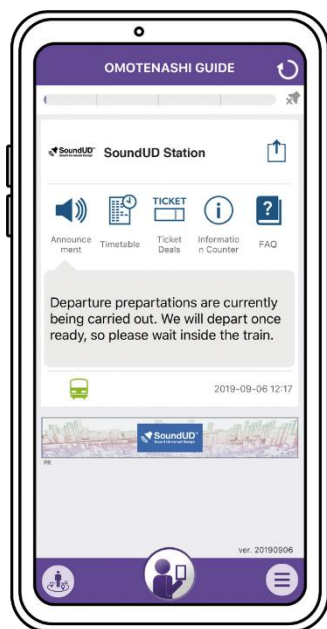
① 背景

- **訪日外国人・高齢者・聴覚障がい者等**
会場アナウンス等を理解できない可能性あり
 - **観客や選手へのおもてなし、災害時の対応**
の観点から、より多くの方にアナウンス内容を理解してもらうことが重要
- ⇒ **組織委員会とともにツールの検討開始**

② 導入システム

● SOUND UD システム (ヤマハ(株))

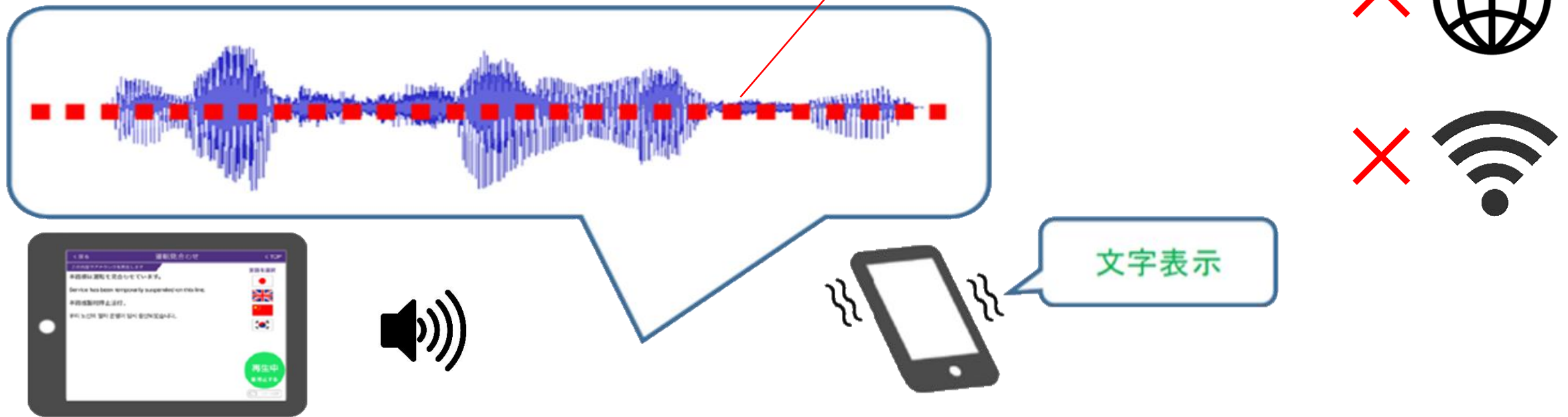
⇒ アナウンスの内容を、スマートフォン上に、
ユーザーが選択した言語で、文字情報として表示



専用アプリ「おもてなしガイド」



③ 仕組み



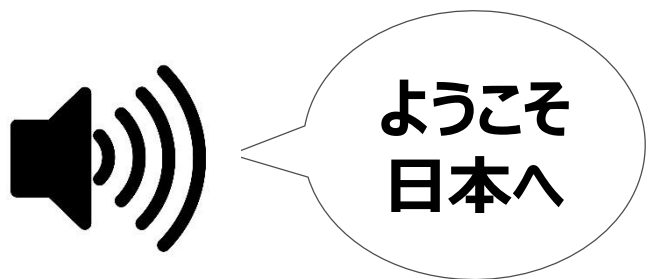
- 通常の案内音声(青い波形)に、**非可聴音である音声トリガー**(赤い点)を組み合わせて放送
- 音声トリガーを専用アプリ「**おもてなしガイド**」が受信することで、アナウンス内容を文字情報で表示

④ 使い方



対応スポットでアナウンスが
流れている時にアプリを開き、
アナウンスを聞かせてください。

アナウンスの内容が変換
され、選択した言語で表
示されます。



7 言語に対応



日本語



英語



中国語(簡)



中国語(繁)



韓国語



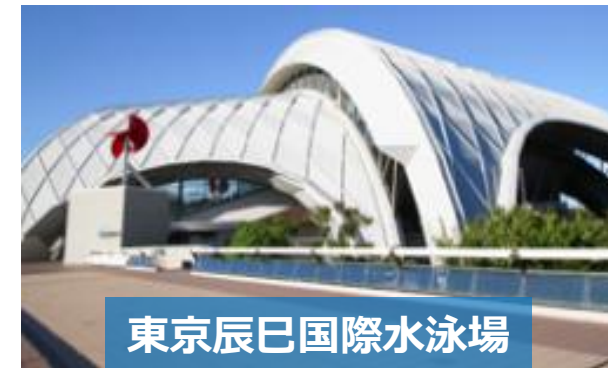
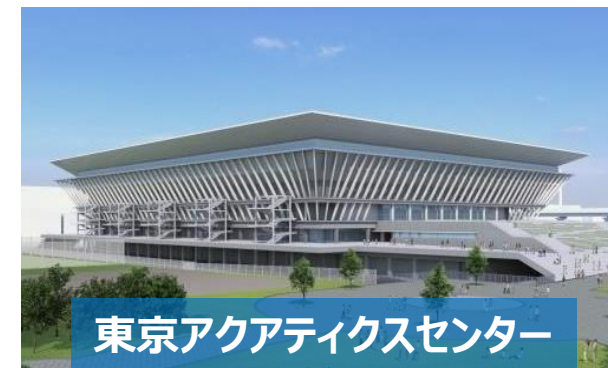
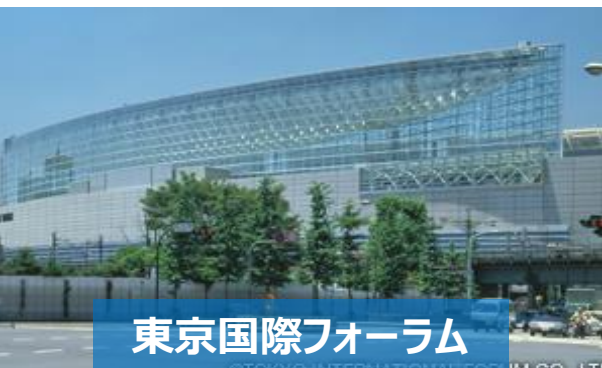
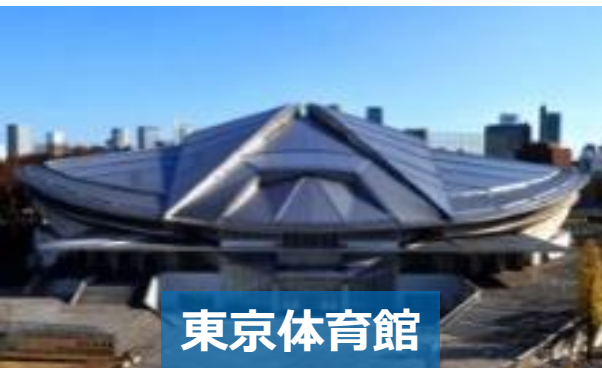
フランス語



スペイン語

⑤ 導入予定施設

● 全12施設に導入、大会後もレガシーとして活用





TOKYO 2020



TOKYO 2020
PARALYMPIC GAMES



HOST CITY